



Letter

Citizens' Alliance

for Saving the Atmosphere and the Earth

AUG.2010

No.70

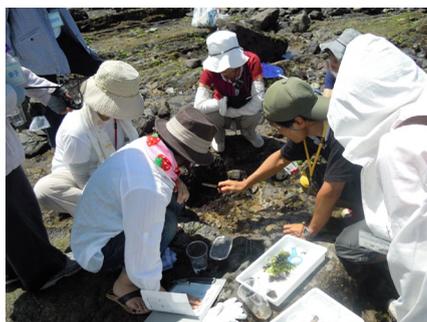
地球環境大学課外講座 8月8日(日) 和歌山県加太・田倉崎海岸

「海辺の生物多様性を調べよう」

海辺の学芸委員・佐名川洋之さんを講師に、海辺の生物調査を開催しました。炎天下にもかかわらず19名が参加しました。調査場所は、満潮のときには水面下にかくれ、干潮のときには海底が露出する部分(潮間帯)です。

田倉崎は自然海岸で紀伊水道に入った黒潮が直接当たるところに位置しており、多様な生物が住みついています。調査は10時30分～12時までの短時間でしたが、わずか2つの潮溜りで腹足類(巻貝)8種類、カニ6種類、ヒトデ4種類など計44種類の生物を発見しました。

今回の調査では、温暖化の影響を見つけることができませんでしたが、大阪府水産技術センターによると、1973年～2007年の35年間で大阪湾の海水温は約0.8℃、特に11月、12月は上昇幅が大きく、同期間で約1.4℃上昇したとの報告があります。



特集

トピック

報告

生物多様性を考える 第2回「COP10とは？」	2
再生可能エネルギーの買取補償制度について	7
COP16に向けた国際交渉の現状	11
地球環境大学第1回「生物多様性とCOP10について」	14
地球環境大学第2回「生き物たちが教えてくれる地球の今 -地球の多様性、温暖化と野生生物」	16
第10期通常総会	18
原子力発電シンポジウム	19
会員のひろば	23
編集後記	24